

1. 地区の概況

- 1) 杉田地区は、磯子区の南東にあり、南側は金沢区に接しています。面積は約300haです。
- 2) 地区は、国道357号の海側の工業地、国道16号やJR根岸線の沿線の市街地(杉田一、四～五丁目)、丘の上に形成された住宅地(杉田坪呑、杉田二～三、六～九丁目)に区分できます。
- 3) 杉田一丁目には、JR根岸線新杉田駅、京浜急行線杉田駅があります。
- 4) 人口は、約24,100人で、緩やかに減少していましたが、平成23～28年の期間は緩やかな増加になりました。

●人口・世帯数の概要

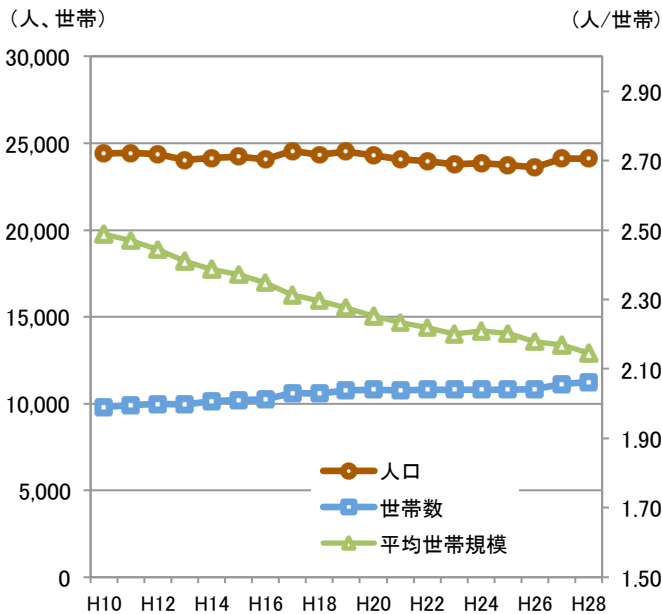
	平成18	平成23	平成28	平成18 ～23年	平成23～ 28年	平成23 年比率 (%)	平成28 年比率 (%)	平成28年 区平均比 率(%)	平成28年 市平均比 率(%)
人口 (人)	24,326	23,794	24,109	▲ 532	315	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳人口 (人)	2,999	2,795	2,810	▲ 204	15	11.7	11.7	12.0	12.7
(内0～5歳) (人)	1,140	1,069	1,079	▲ 71	10	4.5	4.5	4.9	4.9
15～64歳人口 (人)	16,671	15,613	14,895	▲ 1,058	▲ 718	65.6	61.8	61.4	63.7
(内20～24歳) (人)	1,449	1,232	1,182	▲ 217	▲ 50	5.2	4.9	4.8	5.1
(内25～39歳) (人)	5,615	4,781	4,203	▲ 834	▲ 578	20.1	17.4	17.9	18.5
65歳以上人口 (人)	4,656	5,386	6,404	730	1,018	22.6	26.6	26.6	23.6
(内65～74) (人)	2,746	2,890	3,351	144	461	12.1	13.9	13.8	12.4
(内75歳以上) (人)	1,910	2,496	3,053	586	557	10.5	12.7	12.8	11.2
世帯数 (世帯)	10,593	10,813	11,236	220	423				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.30	2.20	2.15					2.10	2.13

\*「町丁別世帯と男女別人口」「町丁別年齢別男女別人口」による。各年9月末現在

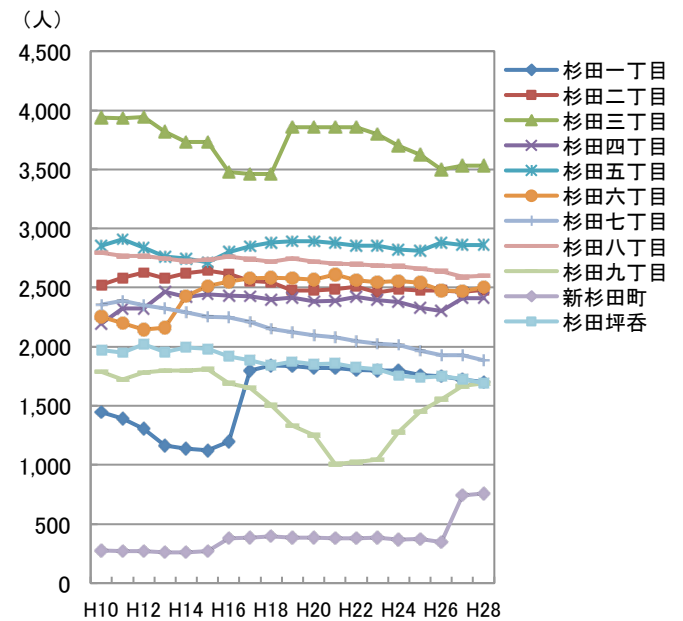
- 5) 世帯数は、約 11,200 世帯。緩やかな増加を続けています。
- 6) 平均世帯規模は、2.15 人／世帯です。縮小が続いてきましたが、縮小が止まる傾向が現れてきています。
- 7) 区の平均に近い年齢構成になっています。高齢者（65 歳以上）の比率は 26.6%、75 歳以上の高齢者の比率は 12.7%と、いずれも区の平均に近い比率になっています。  
年少人口（0～14 歳）の比率は 11.7%でほぼ区の平均と同じです。生産年齢（15～64 歳）の人口は 61.8%でほぼ区の平均（61.4%）と同じ比率になっています。
- 8) 杉田坪呑には、都市機構の団地（「磯子杉田台」分

譲 147 戸、「磯子杉田台Ⅰ」賃貸 70 戸、「磯子杉田台Ⅱ」賃貸 23 戸）があります。  
また、杉田九丁目には NTT の社宅（独身寮を含む）がありましたが、その跡地は民間の戸建て住宅用地（区域面積約 3.54ha、191 区画）として整備されました。

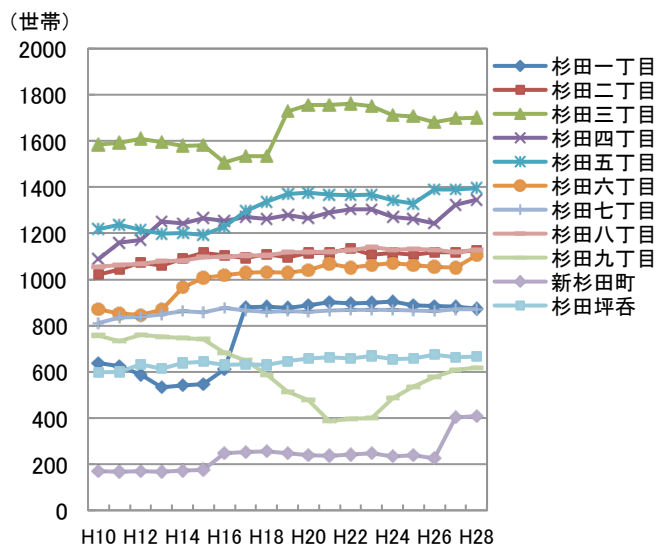
●地区の人口、世帯数の動向



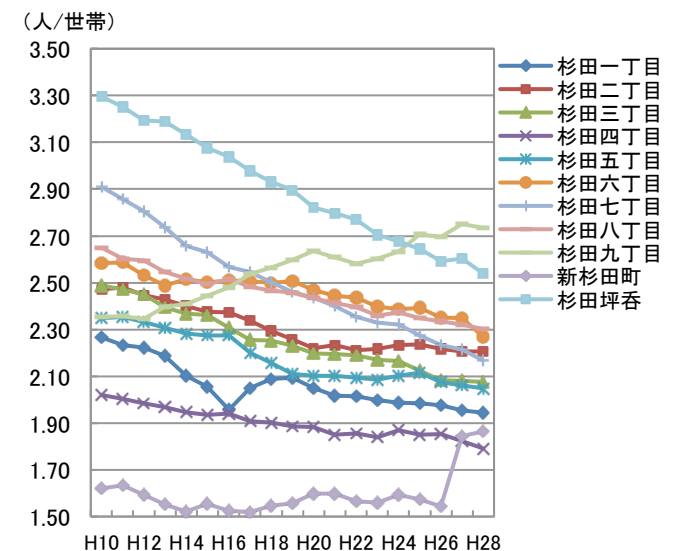
●町別・人口の動向



●町別・世帯数の動向

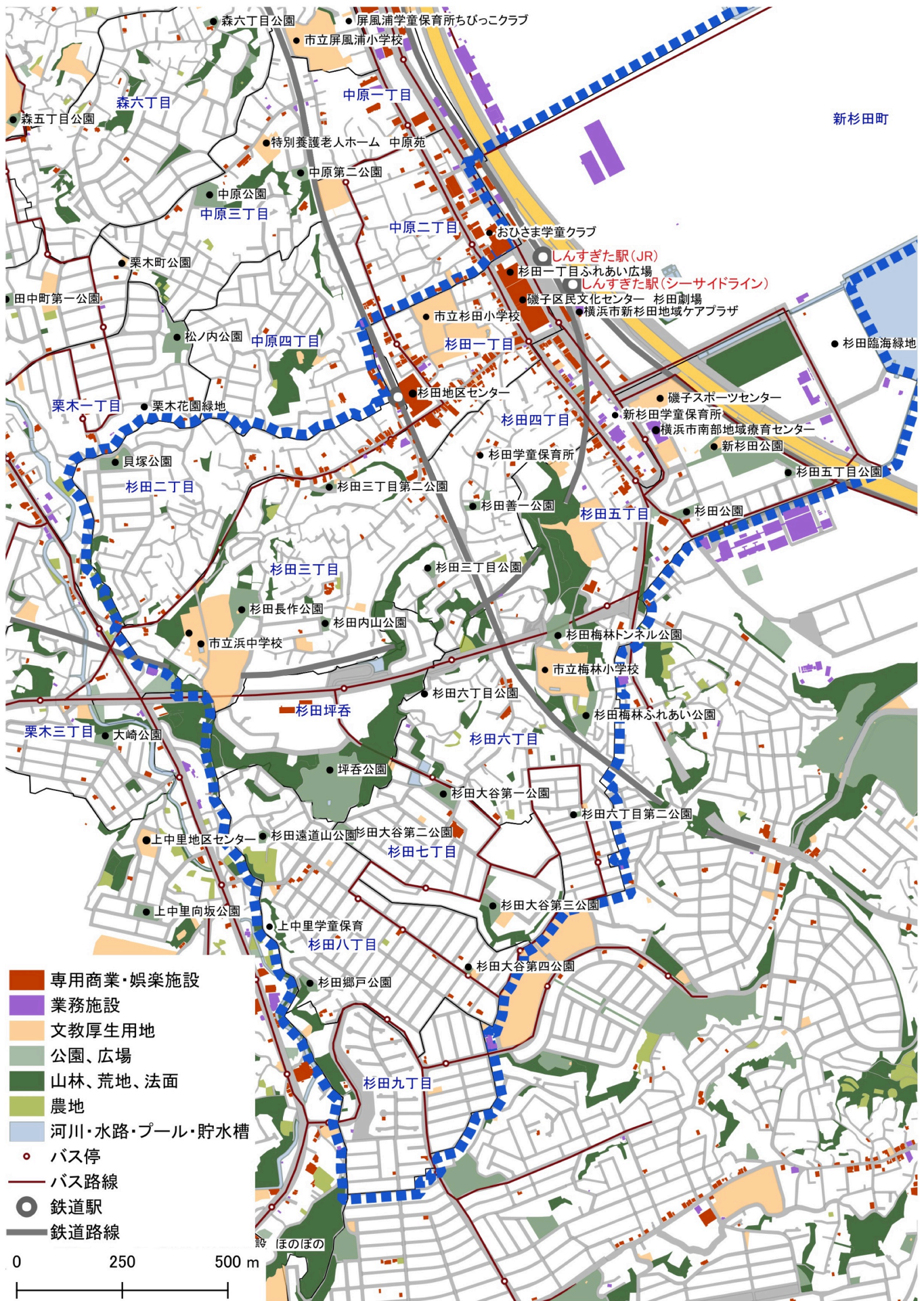


●町別・世帯規模の動向



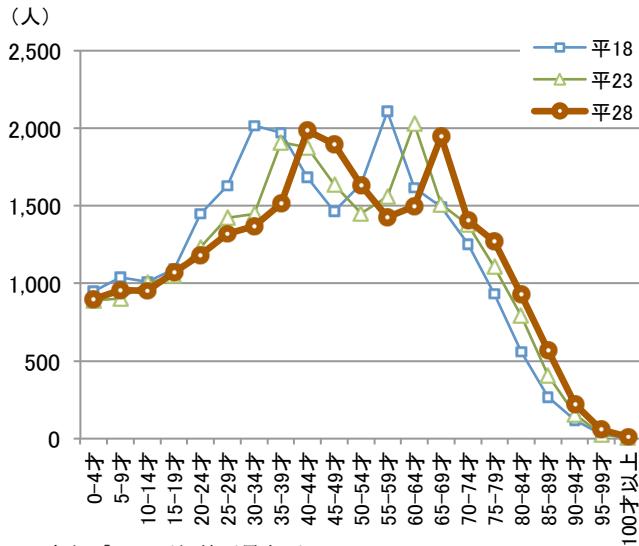


●施設などの分布状況



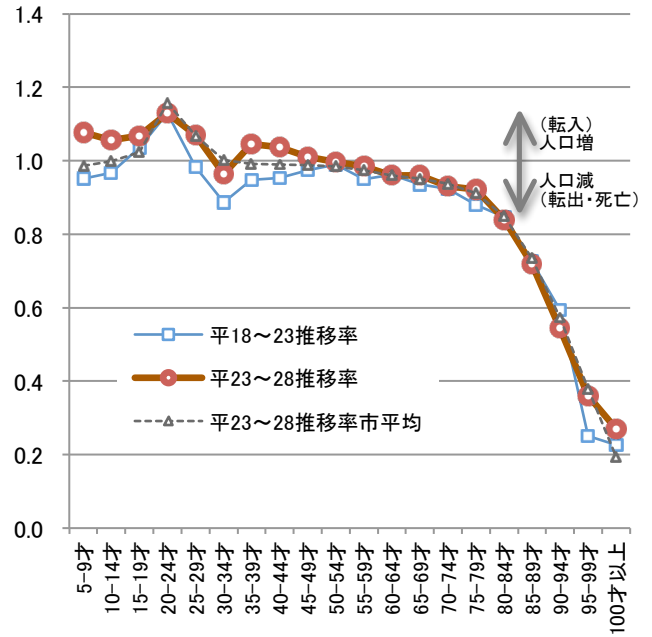
\*都市計画基礎調査結果 平成25年(横浜市建築局)を活用した

●年齢5歳階級別人口の変化



\*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

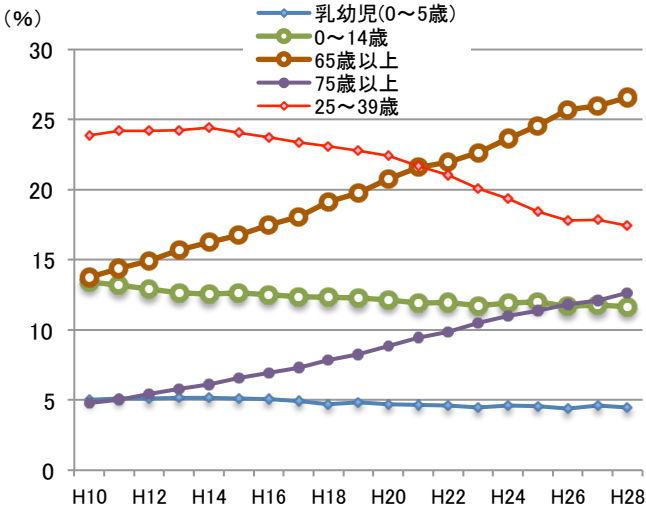
●年齢5歳階級別人口の推移率



\*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

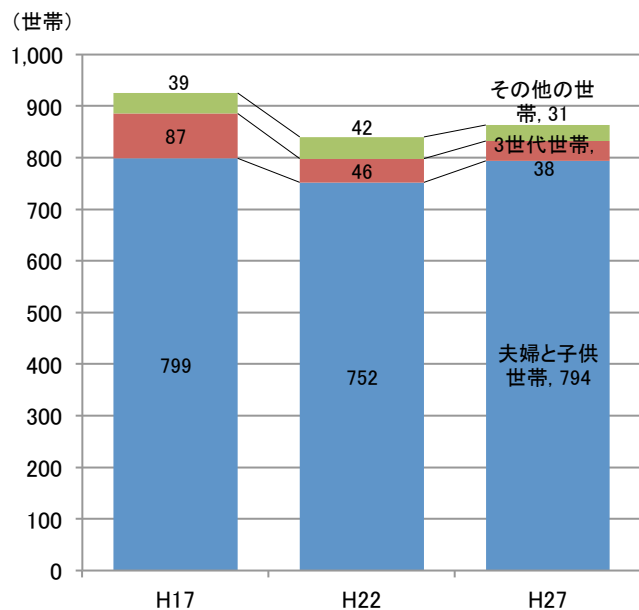
\*推移率：この場合は、年齢の5歳別人口が、死亡、転出入によって5年後にどう変化するかをみる指数。現在の5歳階級別の人口÷5年前の5歳若い5歳階級の人口

●乳幼児・高齢者比率等の動向



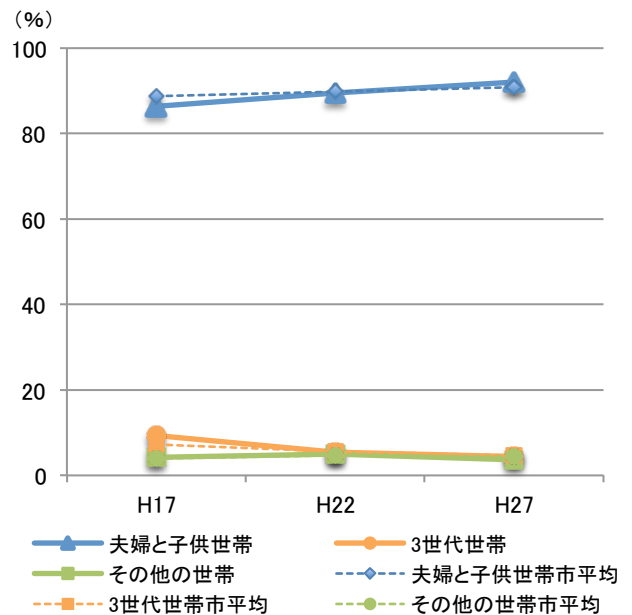
\*各年「町丁別年齢別男女別人口」による

●6歳未満の子どもがいる世帯の動向



\*各年「国勢調査」による

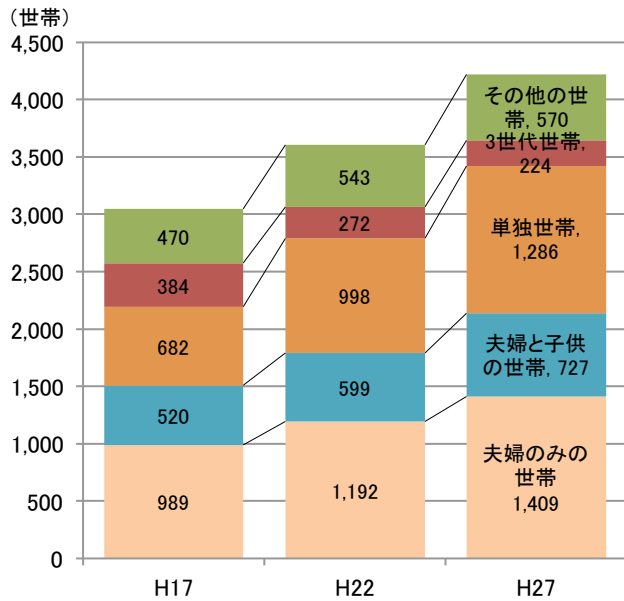
●6歳未満の子どもがいる世帯の比率



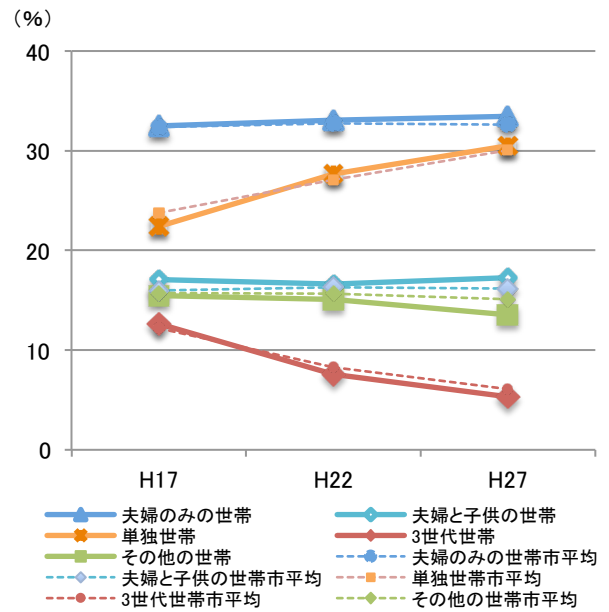
\*各年「国勢調査」による



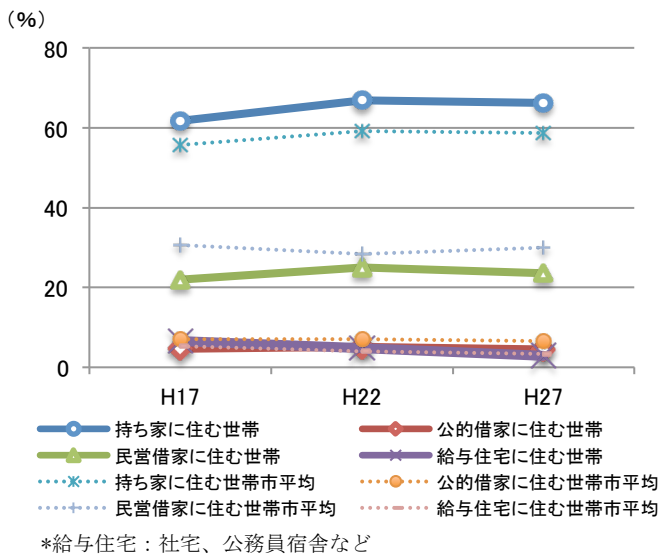
●高齢者 65 歳以上がいる世帯の動向



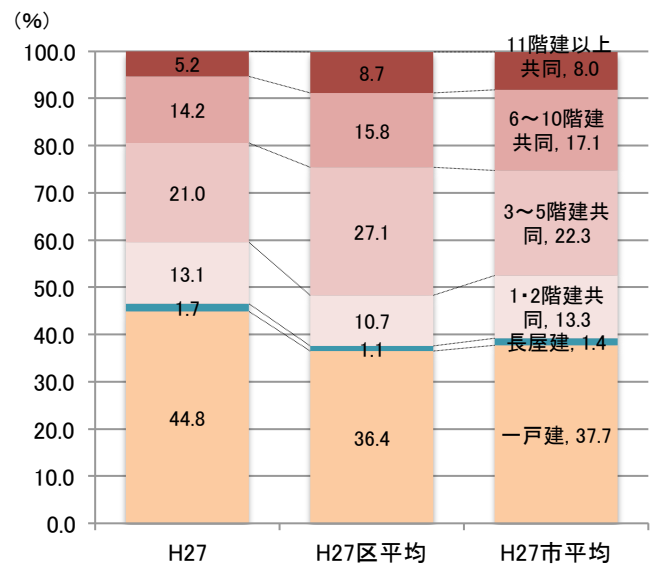
●高齢者 65 歳以上がいる世帯の比率



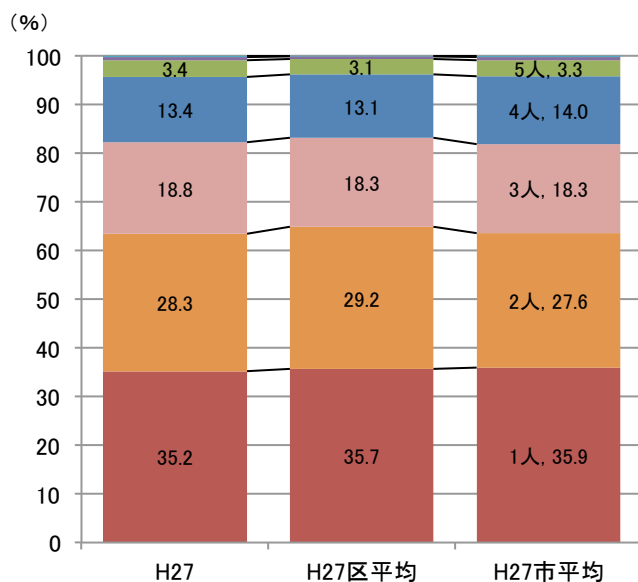
●住宅の所有関係別世帯の比率



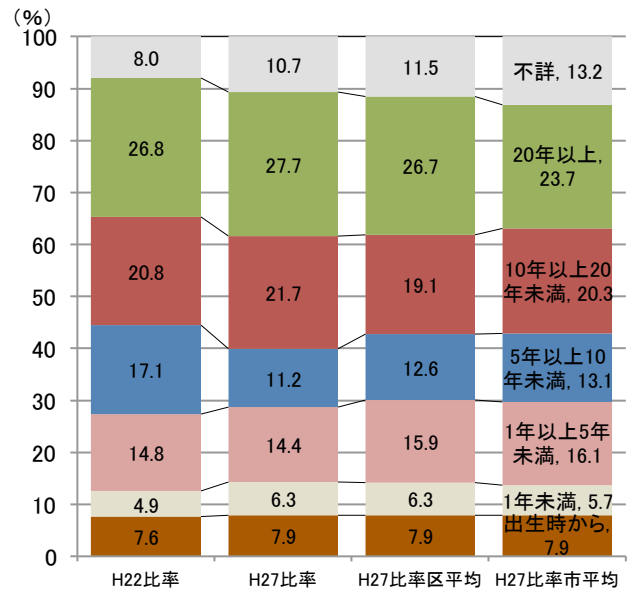
●住宅の建て方別世帯の比率



●規模別世帯の構成



●居住歴別人口の比率



## 2. 地区の居住者特性

### 2.1 国道16号やJR根岸線に沿って3階建以上の中高層のマンションや戸建て住宅等が混在する市街地 - 杉田一、四～五丁目

- 1) 杉田一丁目では人口が緩やかに減少していますが、他の2町は、人口、世帯数ともに概ね安定しています。
- 2) 京浜急行線杉田、JR線新杉田の駅に近接していることもあり、杉田一丁目、四丁目では20歳代前半の人口が転入増加する傾向があります。世帯規模も小さくなっており杉田一丁目では1.94人/世帯、四丁目では1.79人/世帯です。
- 3) 30歳代後半を中心に、多様な世代が居住しています。
- 4) 多様な形式の住宅が立地しています。国道16号の沿道に中高層の共同住宅が立地し、道路沿道と京浜急行線の間には戸建て住宅等が多く立地しています。
- 5) 民間の賃貸住宅に住む世帯が比較的多く、いずれも区の平均を上回っています。特に杉田四丁目地区の比率が高く48.3%で、区の平均(22.1%)を大きく上回っています。

### 2.2 人口が減少し高齢化が進んでいる地区もある丘の上の住宅市街地 - 杉田坪呑、杉田二～三、六～九丁目

- 1) 丘の上の住宅地で、人口が減少している地区が多くなっています(杉田坪呑、杉田二丁目、杉田七～九丁目)。世帯数はほぼ安定しています。
- 2) 杉田三丁目は人口が減少していましたが、マンションの立地などにより人口は回復しました。
- 3) 杉田九丁目では、NTTの社宅が廃止されたことにより、人口、世帯数とも減少しました。また、子育て世代とその子どもが減少しましたが、戸建て住宅地として再整備され、平成24年以降人口、世帯数が急速に回復してきています。
- 4) 平均世帯規模は、いずれも区の平均を上回っています。
- 5) 高齢化が進んでいる地区が多くなっています。杉田七丁目では40.4%、杉田八丁目では33.3%と高くなっています。(区平均は26.6%)
- 6) 高齢の夫婦だけで暮している世帯の世帯総数に対する比率が杉田七丁目(23.3%)と八丁目(19.3%)で高くなっています。(区平均は12.8%)  
 高齢の一人暮らしの世帯の比率も杉田七丁目(15.0%)と八丁目(14.6%)で高くなっています。

す。(区平均は13.2%)

- 7) 杉田七丁目には神奈川県住宅供給公社の団地(「杉田大谷第1・第2」450戸)があります。世帯数の概ね1/2が団地の居住世帯です。杉田七丁目は世帯規模2.17人/世帯と区平均(2.10人/世帯)を上回っていますが、平均世帯規模の小さくなる傾向が続いています。子育て世代が転出し減少する傾向があります。

### 2.3 30歳代を中心に、20歳代～40歳代が共同住宅に住む地区- 新杉田町

- 1) 30歳代を中心に20歳代後半から40歳代が住んでいます。
- 2) 人口、世帯数は安定していましたが、平成27年に人口、世帯数が急増しました。
- 3) ほとんどすべての居住世帯が中高層の共同住宅に住んでいます。